

会 議 議 事 録

1 会議名	令和元年 第1回長岡市地方創生推進会議
2 開催日時	令和元年7月5日(金) 午後1時30分から午後2時45分まで
3 開催場所	アオーレ長岡 東棟4階 大会議室
4 出席者名	<p>(委員)(敬称略)</p> <p>長岡市長 磯田 達伸 長岡市副市長 高見 真二 長岡商工会議所 専務理事 山村 雅隆 長岡地域商工会連合 会長 稲田 育彦 長岡公共職業安定所 所長 佐藤 房雄 長岡技術科学大学 学長 東 信彦 長岡工業高等専門学校 事務部長 大澤 和美 長岡崇徳大学 学長 森 啓 長岡造形大学 理事長 水流 潤太郎 長岡大学 学長 村山 光博 大光銀行 地域産業支援部 副部長 柏櫓 学 第四銀行 執行役員 長岡営業部長 堀 岳彦 長岡信用金庫 常務理事 営業推進部長 佐藤 光一 新潟県信用組合 長岡支店 支店長 吉田 祐吉 日本政策金融公庫 長岡支店 総括課長 石田 雄一郎 北越銀行 ソリューション営業部 副部長 樺澤 正直 連合新潟中越地域協議会 議長 矢島 良彦 新潟日报社 長岡支社長 八木 浩幸</p> <p>(事務局)</p> <p>長岡市</p> <p>地方創生推進部長 渡邊 則道 政策企画課 課長 大矢 芳彦 政策企画課 課長補佐 河上 雄一 政策企画課 係長 林 智和 政策企画課 主査 渡邊 美和子 政策企画課 主事 田中 裕也</p>

5 欠席者名	なし
6 議事	(1) 長岡版総合戦略について (2) 次期長岡版総合戦略の策定について(資料1、2)
7 報告	なし
8 審議結果の概要	・ 議事(1)、(2)について、事務局から概要を説明し、意見交換が行われた。
8 審議の内容	
事務局・地方創生 推進部長	<p>本日はお忙しいところをお集まりいただきまして誠にありがとうございます。ただいまから、令和元年度第1回長岡市地方創生推進会議を開催いたします。なお本日の会議は公開となっておりますのでよろしく申し上げます。</p> <p>それでは、開会にあたり、磯田市長からご挨拶申し上げます。</p>
磯田市長	<p>皆さま、こんにちは。お忙しい中お集まりいただきまして本当にありがとうございます。日ごろから長岡の発展にご支援賜りまして、心から感謝申し上げる次第であります。</p> <p>今般、次期の長岡版総合戦略を策定するにあたりまして、広く関係者の皆さまからご意見をいただきながら、産官学金労言を含めたオール長岡で地方創生を推進する体制をさらに進めていきたいと思っています。</p> <p>今回から、長岡崇徳大学さんからもご参加いただきまして、今日は森学長さんにもご出席いただいております。誠にありがとうございます。新たな委員をお迎えして、ぜひ皆さまとともに長岡市の未来を考えていけたらと思っている次第でございます。</p> <p>この長岡の総合戦略は元々若者を長岡の地方創生の主役に据えて、将来に渡って元気なまちでありたいということ、この戦略の中で実際にアクションプランをつくりながら頑張っていくという内容になっております。これは平成27年度に策定させていただいたものであります。</p> <p>その後、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」という国の総合戦略の最終年が今年度に当たるということで、年内に次期の総合戦略を国は考えると言っています。それに従って、長岡のほうも次の動きをということで今日お集まりいただいたわけです。</p> <p>国のほうは、その中で2060年に人口1億人をキープするという基本的な、いわば前期の計画を踏まえていこうという話になっております。そういう意味では、そういった基本的なところを踏襲しながら、</p>

	<p>私どもも次期の総合戦略を考えていくことになると思っっている次第であります。</p> <p>計画年次としては、令和2年からの5カ年計画ということで、次期の総合戦略を策定したいということになります。</p> <p>このところの人口の推移を見ますと、前期で想定したものよりもやや改善している部分がありますが、やはり人口減少に歯止めが掛かっていないというのは歴然としております。現在、人口27万人を切っております。合併時の14～15年前は28万8,000人とか、そういう人口だったのですが、それがもう27万人を切るという段階になっております。</p> <p>そういう意味ではまさに待ったなしの状況ではあります、長岡の4大学1高専、そして15の専門学校の学生トータルで7,000人です。そういった若い力も長岡にいっぱいあるということで、そうした方々の活躍ができる場を長岡につくっていきたいというのが、今回の私どもの次期総合戦略を考える上でも基本になると思っっている次第であります。</p> <p>皆さま方の豊富な知識・ご経験あるいは識見により、ぜひ積極的なご意見を賜りまして、いい計画をつくってまいりたいと思っっております。どうぞよろしくお願いいいたします。本日は本当にありがとうございました。</p>
事務局・地方創生推進部長	<p>ありがとうございました。市長は、申し訳ございませんが所用のため退席させていただきます。</p>
磯田市長	<p>失礼します。よろしくお願いいいたします。</p>
事務局・地方創生推進部長	<p>それでは議事に移らせていただきます。議長は、市長に代わり高見副市長が務めさせていただきます。よろしくお願いいいたします。</p>
高見副市長	<p>市長は対応がありまして申し訳ございません。副市長の私のほうで進行させていただきます。それでは議事に移らせていただきます。まず、前回策定時からご協力いただいた方もいらっしゃいますけれども、新しい方もいらっしゃいますので、長岡版総合戦略そのものについて事務局から説明をお願いいしたいと思います。</p>

事務局・政策企画課長	(長岡版総合戦略 長岡リジュベネーションに基づき説明)
高見副市長	<p>今の説明につきましてご質問等ありましたら、ご発言をいただければと思います。このあとも、もう少し情報がありますから、今なければ少し進ませていただきたいと思います。</p> <p>(意見なし)</p>
高見副市長	<p>それでは、次期の長岡版総合戦略の策定について説明をお願いします。</p>
事務局・政策企画課長	(資料1、資料2に基づき説明)
高見副市長	<p>ありがとうございました。今までの説明につきまして何かご質問等ございませんか。総合戦略というのは、国のほうで比較的地方に視点を当てた政策だと思います。地方の人口減少がなかなか止まらないということで、総合的な戦略を考えましょうという法律になっているわけでございます。</p> <p>やはり、人口減少というのが地域の経済であったり活力であったり、そういったものに非常に大きな影響を与えて地方の弱体化につながりかねないということです。『消滅都市』とか、当時話題になって本もありました。そういった中で元気な地方をつくるために総合的に取り組みましょうということだったと思います。これを受けて、長岡市のほうでも若者にフォーカスを当てた戦略ということで前回戦略をつくったところでございます。</p> <p>国の枠組みは、基本的に維持して次期の5カ年に向かうということですが、5年で必ず成果を出し切れるというものでもございません。長岡市としても、基本的な枠組みは維持しつつ、この5年間を検証してさらに充実すべきことを充実していきたいという思いで、次期戦略の改定に向かっていきたいと考えているところでございます。</p> <p>パンフレットに戻っていただきますと、1番から7番までの柱建てに主な施策が書かれております。この4年間長岡市において行われている施策も書かれています。これらについて実施してきているわけで</p>

委員	<p>すけれども、若干の改善は見られていますが大勢には変わりありません。当初目指していたように人口を維持できるトレンドに持っていけるのかどうか。引き続き取り組むことによって軌道に載せていきたいと思っております。</p> <p>何でもありでございます。何とか長岡を元気にして、人口を維持していくためにこれから何をしていこうか。本当に今日お集まりの各セクターの皆さまからもご意見をいただいて、長岡市としても取り組んでまいりたいと思っております。</p> <p>今日は「こういったことをまたやります」ということを皆さんにお伝えする場ではございますが、最近の各セクターの方々のご感想でもご提言でも結構でございますので、忌憚のないご意見をこの場で自由にいただければと思います。</p> <p>なかなか口火は切りにくいかもしれませんが、人口減少についてさらに将来に向かっていくために、皆さま方のほうで最近何かお感じになられていること等ございましたら、どちらからでも結構でございますのでご発言をいただければ幸いです。</p> <p>栃尾地域は本当に人口の減少が激しくて一番流出している。若者が増えないのに高齢者が亡くなっていく。この差が大きくて、年間450人ぐらい減っているという状況が、このところずっと続いております。栃尾の特殊事情としては非常に面積が広くて、守門岳のふもとから市街地まで住んでいるところが広がっていることがあります。</p> <p>昔の部落。こういうところは体系を維持できない。生活がやりにくいということで、そこら辺の方が長岡の中心部に、栃尾よりも長岡の中心部に出てきています。</p> <p>それと、栃尾の場合雪が降りますから、雪に対する備えがあります。年を取ってくると、自分の家の雪下ろしを自分でやるのは年齢的に無理なところがある。だから、雪のあまり降らないところ。あるいは雪下ろしとかそういうことをしなくてもいいところに移らざるを得ないということで減少していきます。</p> <p>逆に言うと、子どもたちがその地域で生活できていけるのであれば別の道もあるのでしょうけれども。中山間地では、なかなか自立していくのは難しい。そういう諸々の要素が組み合わさって、人口減少の大きな要素になっているという実感は持っております。</p> <p>ある意味、みんなしようがないという諦めの気持ちが非常に強いわけですがけれども。何とかいい方策があつて、限界部落に近いところで</p>
----	--

	<p>もちゃんと生活ができるという方向性が示されれば、これでまた別の形ができるのではないかと考えております。</p> <p>それぞれの部落の人口が減って、あと増えているのはサルとクマとかそういうところです。最近増えていまして、通学路にもクマが出たとかいう話が出始めています。通学途中の子どもがクマにでも襲われたら、そういう話題提供をして何かできるのではないかとという人もいますが、私はそういうのはあまりにも逆説的過ぎると思っています。</p> <p>もっとまじめに、そこで生活できる体系を何とか考えていただきたいと思っています。</p>
高見副市長	<p>ありがとうございました。</p>
委員	<p>現行のリジュベネーションのときには、若者の主体性を大いに期待しようじゃないかということで、「ながおか・若者・しごと機構」が設立されているということでした。その活動状況がどうなのかなと思っています。</p> <p>イベント系は非常に元気な気がするのですが、一方で仕事というか長岡で起業してやろうというような面ではどうなのか。もっとそこが元気になってほしいという気がしています。</p> <p>でも、ながおか clip の最近の活動を見ていると、そちらのほうに火がついてきているのではないかと期待します。それから、NaDeC の4大学1高専の活動というのもスタートしています。そのところで、若者が生き生きと主体性を持って自発的に行動していくことに火がつけばいいと思います。若者たちはおじさんたちが「おいで」と言っても来ないですよ。</p> <p>なかなか難しいですけども、そこで若者たちの主体性・自発性を引き出していく。先ほどイベント系は元気だと言いましたけれども、考えてみると、私たちの世代というのは遊ぶということをおもい罪悪視していました。今の社会は豊かに遊んで人生を楽しむことが大いに奨励されなければいけない。そのことが新しい産業を生むことにもつながってくると思います。</p> <p>だから、若者には伸び伸びと豊かに楽しく遊んで、そして起業して、働く場を増やしてほしいと思います。そういう循環ができないかなと思っています。これが1つです。</p> <p>2つ目ですが、交流というところの数字が悪いのにびっくりしました。本当かなと思います。観光入込客数が減っているとか認知度が下</p>

高見副市長	<p>がっているとか。「長岡花火はこんなにすごいぞ」と、常日ごろ聞いている私たちからすると、どうしてそんなに観光客が減っているのかとか、認知度が下がっているのかとか、にわかには信じられないのですけれども。</p> <p>やはり人口増というのはもう難しいと思うんですよね。そうすると、よく言われている交流人口とか関係人口に尽きると思います。この数字は絶対にこれから上げていかなければいけない。そういう目標だと思っています。皆さん、頑張りましょうと言いたいわけでありませう。</p> <p>ありがとうございました。一つ一つ答えていく場ではないと思いますが、若者機構につきましては、おっしゃるとおり若者に自由に企画してもらっていろいろなイベントをする。先週末も成人式とかグッタメとか、本当に若者が生き生きと活動するようなイベントがアオーレでも行われていますし、いろいろな場所でも行われるようになってきています。それは1つの成果が上がってきていると思います。</p> <p>もう一つ。若者しごと機構の仕事の面では、実際の仕事は何なのだろうかというときに飲食とか理美容というのが起業では比較的多いです。昨今、NaDeCとか今回の戦略の見直しで大きく取り入れていこうと思っている新しい産業起業の芽が、少し出てきているのかなと思います。これを励ましていこうと思っています。</p> <p>栃尾の話で出ましたが、今、長岡の飲食店で、栃尾出身の若者がいっぱい新しいお店を開いて栃尾から通っています。オール長岡で言うと栃尾の若者もまだまだ元気です。むしろ、旧長岡の子よりも元気にまち中で活動しているのも見掛けます。車でせいぜい20分ぐらいのところですから、中山間と言いながらまちに近いのが長岡の中山間だと思っています。オール長岡でそういう若者の活動が出てくるのかなと思っています。</p> <p>また、交流人口の統計でございますが、使っている指標値は県で集計している観光地の集客数です。数字が伸びていない大きな理由は寺泊の減少です。寺泊の観光人口が非常に落ちています。これが統計上も出てきているのでわれわれも大変心配しています。</p> <p>今、大河津分水の工事をしていて、これからまた海岸の埋め立てですとかそういったことで海水浴に対する影響や浜砂利に対する影響も懸念されるところでございます。いかにわれわれ長岡市にとっての魅力ある海の観光客を維持・回復していくか。観光入込客数の1つの</p>
-------	--

	<p>課題だと思っております。</p> <p>あと、減少に影響したのが、丘陵公園と近代美術館の集客がちょっと落ちていることです。集計を取った年に非常に人気のあるジブリ展とかいろいろな企画があったのが、今近代美術館は改修で閉めてあります。丘陵公園も天候等の理由で減少しています。</p> <p>一方で、東山で開催しました「米百俵フェス」ですとか、新たな企画で増えている分が統計上まだ表れてきていません。それから、現在整備を進めております道の駅ですとか、摂田屋のサフラン酒本舗の開発なども集客になるのはもう少し先になります。この辺りは、今後の戦略の中でも引き続き強化していくべき点ではないかと思っております。</p> <p>ご発言ありがとうございます。今、大学の立場を離れた視点からのご発言がありました。大学の先生方と学生の目を通して長岡のこの4～5年の動きをどのようにご覧になって、どういう観点がさらに必要だと思われますか。</p>
委員	<p>長岡だけではないと思いますが、地方都市それぞれ国立大学もありますけれども、地元就職する学生の数はうちも2割ぐらいです。なぜみんな東京に行くかという、やはり地方だと給料が安い。それも含めて若者が就職したいような元気な企業が少ないということがあります。</p> <p>一方、女子学生は意外と地元就職志向が強い。親御さんが地元で就職してほしいということもあります。今後は理工系大学も女性技術者や研究者が増えてくると思います。本学もそういうところに視点を置いて、ダイバーシティということでもいろいろな人たちに大学に来てもらおう。特に女性の進出を増やそう。そういう取り組みを進めているところです。</p> <p>そういうことで、長岡だけではないですけども、全国の地方都市で女性の企業進出が盛んになれば、少しはよくなるかなと思います。企業の皆さんの意識改革も必要かなと思います。</p>
高見副市長	<p>ありがとうございます。</p>
委員	<p>本学は逆に県内出身者が多いので、就職も県内の企業に行くことが多いです。人口減少は防げないと思います。今留学生がいますけれども、留学生たちは向こうの大学を出てから日本に来ている子もいま</p>

	<p>す。そうすると、結構年がいった子もいます。本当は日本で就職したいんだけど、文系というところと年齢面で企業さんには取っていただけないところが多いです。</p> <p>これからグローバル化が進んで地域の中にも外国人が増えますと、皆さんにも知られると思うので、市内でも優秀な留学生の就職を考えてもいいかなと思います。</p> <p>交流人口という話がありましたけれども、私はバスに乗ったりタクシーに乗ったりしますけれども、ほとんど現金支払いです。世界は今キャッシュレスになっていますので、公共交通機関はキャッシュレスを広める。それができると外国人も住みやすいという感覚が出てきます。留学生も残って外国人も入ってきて住みやすくなれば、増えていくことになると思います。</p> <p>あとは、私たちの普段の生活の中で外国人と生活すると分かり合えますし、そういうことができれば、留学生も増すし人口も結構増えます。外国人留学生も1つの活力になると思っています。</p>
高見副市長	<p>お願いします。</p>
委員	<p>うちはほとんど地元というか新潟から入ってきます。地元就職率は高いほうですが、新潟県内で就職するよにということで、今年から地元企業によるインターンシップの説明会をやって、かなり盛況でした。県外の大学院に進学する学生もいるので全部が全部地元定着ということではないのですが、前よりは地元で就職する学生は増えている気がします。</p> <p>それから海外で高専を展開しており、モンゴルに3高専ございます。今年の6月に第1期生が出ました。かなり日本で就職したいという学生が多いです。うちで地元の企業さんをお願いして、モンゴルで就職できるようにしています。日本語教育も少し受けていますがまだカタコトなので、技術協力会のほうに日本の学生も含めてモンゴルの学生もどうですかということでお願いしているところでございます。</p>
委員	<p>私どもはようやくスタートしたばかりで意見を言うには至っておりませんが、開学して今年定員80名のところ43名ということで苦戦しています。自己反省を含めて分析してみますと、やはり足の便が1つのポイントかなと思います。授業料は専門学校と比べると高いし、専門学校との区別はなかなか認識していただけないこともあ</p>

	<p>り、これが私たちの課題だと思います。</p> <p>例えば、長岡駅からの足の便をどのようにするか。もちろん、学生がいないのでガソリンを無駄にして走るわけにもいかない。来年2学年目になると、学生が40人から120人になるわけですから、今のバスでは足りない。そういうときに行政および地方創生の方にご支援をいただいて、若者が安心して帰れるようなシステムづくりになればいいかなと思います。それが、私どもが高校回りをしたときの「売り」になるかと思います。「足の便は問題ない」ということで。そばに長岡技術科学大学がありますので同じだと思うんですけども、朝晩の通学の便を確保することが、若者を安心して呼び込める1つのポイントだろうと考えています。</p> <p>一般的に昔は鉄道があって、それがなくなってバス便になって。人が減少してさらにバス便がなくなるという悪循環になっています。やはり足の便というのは一番大きなポイントかなと思います。何とかそのところを踏みこたえられれば、先ほどの分析の緑色のラインに近づく突破口になるのかなと考えております。</p>
高見副市長	<p>ありがとうございます。学生あるいは学校側からの視点でした。今回は金融機関からもご参加いただいております。金融機関から見た長岡の状況あるいは展望でコメントをいただければと思います。順番でよろしいでしょうか。</p>
委員	<p>金融で直接ということではないのですが、先ほどから話があるように交流人口というか交流が今回ポイントになってくるのかなとは感じています。出ていく学生さんは希望を持って出ていくので仕方がないです。</p> <p>その反面、呼び込む仕組みというか、その辺があるといいのかなと思います。例えばインバウンドとかもそうですし、キャッシュレスという話もありました。そういうものでインバウンド対策を取ることも考えられます。</p> <p>いつだったか、県外の方から「新潟とか入ったことあるけど長岡に来たことはない」と言われました。呼び込む仕組みとか交流を深めていく手法・仕組みをつくっていければいいのかなというふうに感じています。</p>
高見副市長	<p>ありがとうございます。</p>

<p>委員</p>	<p>何十年振りの長岡です。正直、結構元気があるというか楽しいというか。いろいろあるなという気がしています。むしろ、新潟市のほうが今はちょっと元気がない。画一的というか、こういうものがあるしああいうものもあると、久しぶりなので面白がっているだけかもしれませんけれども。いろいろあるじゃないかという気がしています。</p> <p>金融ということではないですけども、合計特殊出生率。人口のお話を結構丁寧にされていました。合計特殊出生率が1.5から2.19に上げましょうと。これは結構壮絶なというか、すごい話だと思います。今全国で減っている中で、さらに全国を上回る数字ということになっています。</p> <p>これに近付けようとする、たぶん1人当たりではなくて婚姻率とか、若いお母さんでも子どもを産んで育てられる状況とかというところを整備することで、この数字は変わるのかなと思います。1人の方が産むお子さんの数が増えていくということと、ご家庭を持つ女性の割合が高まること。早くからお子さんを持つような環境づくりみたいなことが、たぶんこの数字に効くのかなと。</p> <p>これからの議論になるのかもしれないですが。若くして結婚できて子どもを育てることに対する不安みたいなものの解消とかの検討を、人口を増やすという観点からは考えないといけないのかなと思いました。決して「産む何とか」とかそういうことではなくて、数字を見てそう思いました。</p>
<p>高見副市長</p>	<p>ありがとうございました。出生率の数字につきましては、元々長岡が全国平均より若干高かったということがあります。全国平均の目標値にちょっと高かった分を載せたのがこの目標値だったということです。全国も上がってこないし長岡も上がってこない中で、この数字はおっしゃるとおり、やや現実味を失ってきているということかと思えます。</p> <p>ただ、これは結果としての数字という性格もございます。おっしゃるとおりどうしたら子どもを産み育てられる環境をつくれるのかという観点に立ちますと、ちょっとここは強化していかないと根本的な人口回復にはつながってこないという領域かと思っております。</p> <p>晩婚化・非婚化ということも1つの減少の理由になっております。</p> <p>何かこう、いろいろな工夫をする。そういう人生もあるということも考えていただけるような環境もいるのかなと、ちょっと職場でも乱</p>

<p>委員</p>	<p>暴な議論をしているところでございます。ありがとうございます。</p> <p>このパンフレットに1から7まであるんですけども、いろいろな面で金融機関も関わってくるものがあります。4番の「働く」ということになると、特に県内起業・創業が少ない。全国でもワースト2とか。金融機関も一生懸命起業・創業をやっているんですけども。</p> <p>先ほど副市長がおっしゃったように飲食店とか理美容は多いのですが、そういうところがそのあと続けているのか。中には辞められるところもある。事務所経営で後継ぎがないとか。それについても金融機関で取り組みはやっているのですが。なかなかうまくいかなかったり、あるいはM&Aとかも動いています。</p> <p>ある程度のできるということか、まだ足りない部分もあるかもしれませんが金融機関ではやっているんですけども。先ほど大学のほうでおっしゃいましたが、学生が働ける場所が少ないとか。急にはならないと思いますけれども、そういうことで金融を通してやっている部分もあります。</p> <p>全国の信用金庫は259ありますけれども、観光とかお互いにチラシをつくってやるようにして、旅行の方とかに「新潟に来てくれ」とか、少しでもと思ってやっています。本当に数字が上がるほど効果を上げるのは難しいです。</p> <p>そういう取り組みの中でいろいろな資料が来ていますけれども、全国でも一部の市町村で人口が増えているところがあります。本当に即効的なものはないかもしれないんですけども、そういう都市もあります。行政もそういうものを参考にして資料をもらっているかもしれませんが。行政のほうでもそういうことが必要ではないかと思います。</p> <p>金融機関としてはもっと必要な部分もありますけれども、ある程度のことをやってはいるのですが進まない部分もあります。うちの職員にも結構独身がいます。婚活パーティーとか多少はあるんです。それがどの程度か分からないですが、そこから増やしていかないと人口減少は難しい問題だと思っています。</p>
<p>高見副市長</p>	<p>ありがとうございます。</p>
<p>委員</p>	<p>国のほうも人口減少の問題がありますし、行政のほうもそうでしょうけれども。銀行側も人口減少によってパイが縮小されている。どこもそういう悩みがあります。ただ、先ほどの話の中で長岡市につま</p>

	<p>しては4大学1高専15の専門学校があるということで7,000人もの学生の若いパワーがあります。この若い人をいかにして定着させるかというのが永遠の課題の部分かもしれません。そういうことを考えてインフラ整備、福祉整備などが必要だと思います。</p> <p>出生数の話もありましたけれども。産む数が少ないのであればほかから流入させないといけないということで、先ほどのインバウンドではないですけども観光客の部分など外国人をいかにして定住させ、そこから人口拡大につなげるか。そういう行政の施策が必要ではないかと思っています。</p>
高見副市長	<p>ありがとうございます。</p>
委員	<p>アオーレ長岡ができて、中心市街地の再開発の計画がまだまだあるということで、頑張って中心部の魅力づくりというか、そういうことには力を入れていらっしゃるのかなと思っています。久し振りに戻ってきてそう感じました。</p> <p>この中では、金融機関というか我々が役に立てるのは「働く」というところでしょうか。創業とか事務所経営とかいうところで力を入れて。金融機関さんとの連携を図りながらやっているというところですね。そういう話があれば、可能な限り何とか支援していこうというスタンスでやっております。</p> <p>交流人口が減っているということで、これはびっくりですけども。何らかの情報を伝えるということで、われわれ全国組織でもありますので、都内の支店に、こちらのお祭りとかのポスターを貼るなどして発信する機会をつくって協力していければと思っています。</p>
高見副市長	<p>ありがとうございます。</p>
委員	<p>銀行も人気業種ではなくなっていて、東京に行った学生が戻ってこなくて「どうしたらいいでしょう」と聞きたいぐらいですけども。</p> <p>せっかくの機会なので、銀行の話というよりも個人的な趣味の話ですけども観光発展につながるかと思います。どこかに行くとすると、お城が好きでなるべく城を狙って行くようにしています。そのとき、いつも「長岡にも城があればなあ」と思います。城は建物としても楽しいんですけども、そこでその歴史とかどういう変遷があっ</p>

	<p>たのかと思いを馳せて、土地柄みたいなものを見るのが面白いわけです。</p> <p>旧長岡ということになるかもしれませんが、いろいろな歴史がある。災害・戦災・戊辰戦争など。あとは、郷土の有名な方とか、ジャンルを問わずたくさん出ていらっしゃる。例えば来年封切の役所広司さんが出ている『峠』とか。役所広司さんは山本五十六さんも演じられましたけど、『峠』の河井継之助の資料など。</p> <p>まだいろいろな方がいますが点在していて分かりにくい。分散している。地元の長岡高校の資料館に行くと、かなりのお宝が文字どおり眠っている。そういう状況があります。ここでどうするかという話ですけれども。</p> <p>長岡というのは、ご承知のように東京から新幹線で1時間半ぐらいのところですよ。非常に近い場所だと思います。ある意味地の利を生かせば、関東圏の人たちが。人間好きなものところには金があればすぐ行くので、そういう取り組みをすればどうでしょうか。</p> <p>歴史館のある建造物・施設を長岡駅に近いところに設ける。そして、観光客もそうですけれども、地元の子どもたちも何かあったらそこに遊びに行って地元の歴史とかを自然と学ぶ。自分たちの地元のことが分かれば、その人たちが勝手に発信する時代が来るのではないかと。そう考えると、そういう循環をつくっていくのもいいのかなと考えています。</p> <p>もちろん一朝一夕にはならないでしょうけれども、5年後や10年後にそういうものができたらいいなということは常に思っております。歴史が好きな人ばかりではないので、美術でも工芸でも何でもいいですけども、長岡の地の利を生かした集客性を上げるような考え方があっていいと思います。常日ごろ感じているところです。</p>
高見副市長	ありがとうございます。
委員	<p>最近ではネットで各企業の労働条件を見られる時代です。そういう中で、例えば今は賃金よりも休日がどうだとか。休日が果たしてしっかり取られているのか。そういったことを学生さんは非常に気にされています。</p> <p>例えば年間休日120日以上企業みたいな検索をすると、もうそうでない企業は引っ掛かってこないわけです。それで果たして長岡市はどうなるのか。あるいは、最低賃金にしても東京都と比べると17</p>

<p>高見副市長</p>	<p>0円以上違っているという状況があります。そこを学生さんがどう魅力を感じるかというところです。</p> <p>幼少のころからここで働くのか・住むのか、どこで住むのか、選択肢みたいな部分も教育というか教えてきました。それが家庭の中でされていないというのが一番の要因ではないかという気がします。</p> <p>やはり、私なんか子どももおりますけれども、「好きなように暮らせ」と言ってしまうと簡単ですけども、それには「親としていろいろな状況を知った上で責任を果たしてくればよかった」と後悔しております。小さいころからそういった教育的な部分の配慮をするのも重要です。</p> <p>長岡市にはこういう歴史的ないろいろな背景があって、全国でも有数なところである。そこで働くことについては「プライドを持ってこの地で頑張ってもらいたい」みたいなことを言えるようになることが必要なのかなという気がします。それは「働く定義」とはまた違う観点ですけども。いずれにしても、競争の土壌が全く違っているということ。</p> <p>それから、保育の関係に関してはさまざまな働き方があるわけですから、例えば休日の保育や夜間保育。そういったところ満たせるようなかたちを、どうやって行政がバックアップしてつくっていただけるか。これも1つのポイントではないかという気がいたします。</p>
<p>委員</p>	<p>ありがとうございました。ちょっと時間が超過しておりますが、一通り皆さまのご意見を聞かせていただこうと思っております。残っている方がいらっしゃいますのでお願いします。</p> <p>気付いたことと今弊社が取り組んでいることをご紹介しますと思います。確かに人口減少というのはあらゆる産業で影響を受けてまして、弊社も読者が減るということで大変厳しい状況です。弊社としても地元と運命共同体というか、地元で元気が出なければうちも駄目だということです。</p> <p>今年の4月から上越地域の上越・妙高・糸魚川の3紙で弊社が持っている報道関係とかイベント系とか、持てる資源を総動員して地元の課題解決あるいは魅力の発信のお手伝いしようということで、一定期間フリーでやりました。これを向こう3～4年間続けまして全県網羅していこうということで、8月は魚沼の地域でやります。いずれ長岡のほうにも、一緒になって汗をかいていることをご紹介します。</p>

委員	<p>とっています。</p> <p>気付いた点について。戦略が7つある中で4の「働く」というのが一番中心的な課題なのかなという気がしています。長岡は若者が県外に出ていく。魅力的な企業が少ないとか、そういった問題もあるかもしれません。</p> <p>確かに感じているのは、長岡の企業の背景として Business to Business の企業さんが多くて、最終的な消費財をつくって直接消費者に企業 PR する必要性がないのかもしれない。国内でも技術的に素晴らしいものを持っている企業は多くある。ご自分の企業の長所・素晴らしさをもっと外に向かってアピールする時代が来たのではないかな。</p> <p>そういう企業努力も、人手不足とか事業承継の問題があるんでしょうけれども。自分の企業のことをもっとアピールされたらどうかという気がしています。</p> <p>流出した人たちは、就職したり家庭を持ったりするといずれ一定程度UターンやIターンとかがあります。そちらのほうを重点的に見てみたらどうでしょうか。定住するのは子育てとか教育とかの環境です。あるいは女性の働きやすさも含めて環境改善をしていけば、「ここだったら子育てしやすい」「にぎやかでイベントも楽しい」ということで補充化に向かう。</p> <p>すぐにはそういう傾向が出るかどうか分かりませんが、1年か2年いた中でちょっと感じたことであります。</p> <p>よろしく願いいたします。先ほど大学の皆さまから大学生の就職の件についてお話いただきました。高校卒業生の話を少し紹介させていただきます。高校生500人ほど就職をしています。今、生産年齢人口が減少していて人手不足が続いています。</p> <p>500人就職をするのに求人はたくさんいただいております。求人をいただいてそこに就職する充足率は、高校生の場合前年度3割を切っていたのですが、今年度3割ちょっとで増えています。よい傾向だと思っております。</p> <p>高校生は地元で就職したいという希望が多いのですが、大学生も多いので、大学生の方が県内にとどまらないで首都圏等に出てしまうということがあります。ここは長岡市ですけれども新潟市等も同じような状況です。やはり、このところを何とかしないといけないのかなと感じております。</p>
----	--

<p>高見副市長</p>	<p>それから、年金の例の2, 000万円問題ではないですけども、生産年齢人口が減って高齢者人口が増えるということで若者に負担が行くのは当然のことです。高齢者等も併せて議論していければと思っております。</p> <p>ありがとうございます。最後、お願いします。</p>
<p>委員</p>	<p>長岡版総合戦略の中核となっている長岡市に職員が1人出向しています。短期間で役に立っているとは思いませんけれども、各機関の連携でこれを核にして進めるということで協力させていただいたところでございます。</p> <p>会議所のほうは7～8年前に営業推進という名前を付けた組織を新設しました。そのときから変わる努力をし始めました。例えばサイトを利用した会員さんの数を増やそうという努力をして今倍増しています。過去最高の会員数を超えることを目指していて、もう少しで達成します。会員数は減っていません。ずっと微増で来ています。もう少しの努力で過去最高に到達すると思います。</p> <p>それから、これは本来あまりいいことではないと思いますが、事業収入。いろいろあるんですけども、特に力を入れているところでは倍増しています。それを地域の企業の皆さまに回しています。そんな中で循環させるようなことです。資金的にもそれだけではないのですが、相対的に補助金等を自分たちで稼いだ分で、それを事業費に回してということです。</p> <p>7～8年前と比べると事務局の中は非常に変わってきているという感じがしています。小さい職場ですけども、商工会議所という看板がある以上会議所が元気でないと皆さんをご支援もできませんし、講演会をしてもあまり真剣に聞いてもらえないと思います。</p> <p>われわれが元気で笑顔で会員の皆さんをお迎えして、私どもがお伺いするときも「元気ですか」と見てもらう。そういうことをモットーにしております。まだ実現してはいませんけれども、変える努力はこれからも継続していきたいと思っています。</p> <p>今、市の商工部とインターンシップ協議会の事務局をやっています。いろいろと課題も出てきますけれども。会議所の青年部と話したのは、企業のことを知ってもらう機会がないので経営者が前面に出て自分たちの経営に情熱を注ぐ姿、または、経営者自身の人間的なものをもっと学生に知ってもらうことが大事だということです。</p>

<p>高見副市長</p> <p>一同</p>	<p>具体的なプログラムはこれからですけれども、今までやってこられた大規模なものではなくて小グループでいいので、会議所・青年部が共同でつくったプログラムでインターンシップ協議会の中で採用してもらうことを計画しています。</p> <p>それから、産業振興のこともお話ししておきます。会議所は産業ビジネスの支援拠点としても期待されています。ワンストップ型で、4大学1高専の皆さまも人材育成・イノベーションの部分で力を発揮していただくという計画です。</p> <p>産業界・産業人も、大学の皆さんとの交流と学生の皆さんとの交流の機会が少ないということを実感しています。会議所と言えば企業の支援のほかに経済人の育成とか、交流の場の創出とか、そういう面で努力していきたいと思っています。</p> <p>そこで、限られたコストと限られた人員でどうやって論理的に事業を推進していくのか。知恵を持ち寄ってすぐに推進できるような機構をつくって、みんなが力を合わせて新しい機能を推進していくというかたちが必要ではないかと思っています。</p> <p>皆さん、ありがとうございます。進行が悪くて時間が超過してしましまして申し訳ございませんでした。途中でこの会議の進め方・スケジュールで進めさせていただきましたが、今日いただいたようなご意見も踏まえまして、このあと事務局のほうで案を作成してまた見ていただくということになろうかと思えます。</p> <p>先ほど「長岡はまあまあ元気じゃないか」というご意見もありましたが、新潟や上越と並んで新潟の3各拠点としてますます元気にやっていきたいと思しますので、皆さまのお力添えをなおい層よろしくお願ひ申し上げます。</p> <p>超過してしまつて本当に申し訳ございませんでした。この総合戦略をいいものにまとめていきたいと思しますので、ご協力のほどどうぞよろしくお願ひいたします。本日はありがとうございます。</p> <p>ありがとうございました。</p>
------------------------	--

9 会議資料

- 次第・出席者名簿・配席図
- 長岡版総合戦略 長岡リジュベネーション概要版
- 資料1 次期長岡版総合戦略について
- 資料2 まち・ひと・しごと創生基本方針2019について